

少しずつ

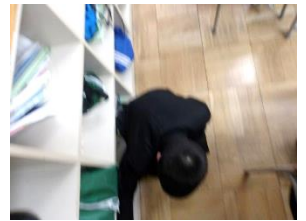
出張のために、宮の台住宅のバス停まで行くと、電光掲示板には、次発のバスの“到着まで 10分”との表記が流れていました。清瀬駅の電車の発車時刻を考えると、間に合うかの瀬戸際で、走って向かうことにしました。コンビニを過ぎると、私の前方をキョロキョロとしながら黄色い交通安全の帽子を被った小学生がゆっくりと歩いています。その子が突然走り始めたのです。その先に両手を広げしゃがむ女性が。小学生は広げられた両手に飛び込み、女性は全身で受け止め抱きしめていました。暖かいシーンの横を通り過ぎようとすると、母親と思しきその女性は「よくできたね。昨日より長くひとりで歩けたね」と声を掛けていました。昨日よりも今日、今日よりも明日、少しずつ一人で歩く距離をのばしているのでしょう。振り返りながら、女性の右肩に乗せた小学生の表情を見ると、安心したような、うれしいような、幸せそうな…。淡い緑のけやきの葉に反射した光が優しく包んでいました。

さて、清瀬中では少しずつ各教科の授業が始まっています。授業のガイダンスを見かけました。ガイダンスとは導くとか案内するという意味があります。知らないことを知るために、できないことをできるようにするための入口としてガイダンスを行います。

1年A組の家庭科は、授業の進め方について解説をしていました。「3年間使いますよ」と資料集

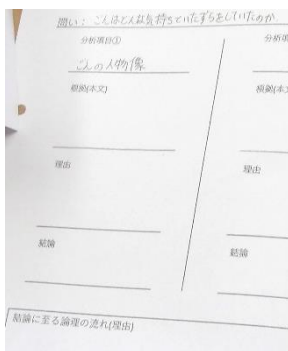


が3年間、学習の共になるということを示唆していました。1年B組社会科は、同じく授業の進め方について担当教員が語り始めるようとしていたのですが、突如、二人の生徒が立ち上がり、後方のロッカーに向かって歩き始めました。教員の説明に使用している資料がロッカーに置いたままであったらしく、取りに行ったのです。担当教員は「何の断りもなく、席を立っている人がいます。授業中に自分の都合で行動をとってよいのでしょうか」慌てた生徒

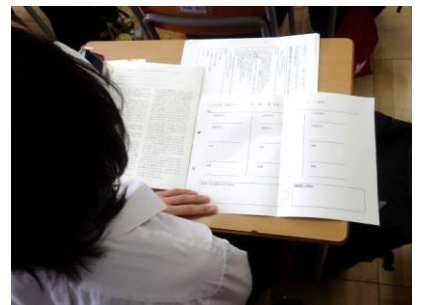


は「ロッカーに取りに行っていていいですか」と声を出しました。「授業中ですから、一言断るべきです。全員が勝手立ち歩いたらどうなるでしょうか。皆さんは知らないと思いますので、今教えました。」と担当教員からの指導がありました。教員の言葉に、立ち歩いたもう一人は「失敗した」というような表情でうなずきながら小さくなってロッカーから資料を取り出していました。失敗をして正しい方法を学ぶ、中学校は失敗したままでは終わりません。

国語は、文章を分析する方法についてのガイダンスでした。



文章を読み込み自ら問いを設定する。その設定に対し、本文から根拠になるところを引っ張ってくる。そして、その根拠となる理由を述べ、結論付ける。いくつか同様に出された結論をまとめ、設定した“問い”に対する答えを導き出すというもの。論理立てて物事を捉える練習の一步目となるのでしょう。知らないことを知っていく。失敗しても失敗から学び次につなげる。できないことをできるようにすることを繰り返す。少しずつ成長する。それが中学校です。この先、停滞する場面があるやもしれません。それでもその場面は、



成長のために、一歩また一歩、少しずつ昇っていかねばならない かいだんです。